

今年度最後の研究授業を公開して下さったのは、2年次の今城先生です。研究発表会の講演会で、水戸部修治先生に紹介いただいた「吹き出しカード」を早速授業の中に取り入れていました。4月当初は平仮名1文字1文字を一生懸命に学び書いていた1年生が、どんどん言葉を覚え、すらすらと漢字を交えながらノートに文を書いていた。1年生の成長は、目を見張るものがあります。今城先生の優しさに包まれた、可愛らしい1年生の姿が見られる授業でした。

単元名：「いろいろなおはなしをよもう」

教材名：「おとうとねずみ千口」 (東京書籍1年下)

研究授業：1年2組 今城 知亜希 教諭

身に付けさせたい資質・能力

【知・技】(1)オ 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。

【思・判・表】 Cオ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持つこと。

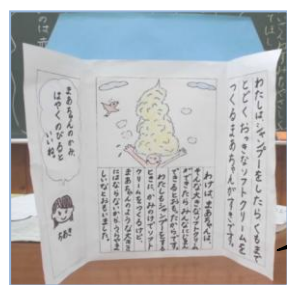
Cカ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。

【学びに向かう力】楽しんで読書をし、人物の好きなところを見つけながら読み、紹介しようとしている。

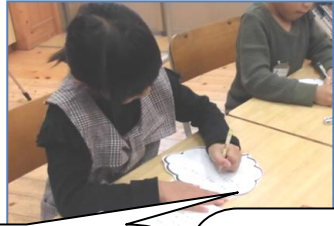
学習の流れ

「おとうとねずみ千口」
がくしゅうのながれ(10)
めあて
人ぶつ好きなところを「おはなしハウスカード」にまとめ、しょうかいしよう!

- 1 がくしゅうけいかくをたよよう。
- 2 だれがどうしたおはなしかな。
- 3 ばめいわけをしよう。
- 4 チロのどんなところが好きかな。
- 5 チロの好きなところをおはなしハウスカードにまとめよう。
- 6 チロの好きなところをしょうかいしよう。
- 7 おきに入りの本はだれがどうしたおはなしかな。
- 8 おきに入りの本の人ぶつ好きなところをしよう。
- 9 おきに入りの人ぶつ好きなところをしょうかいしよう。
- 10 人ぶつ好きなところを見つけながらよもう。ふりかえりしよう。人ぶつ好きなところを見つけよう。

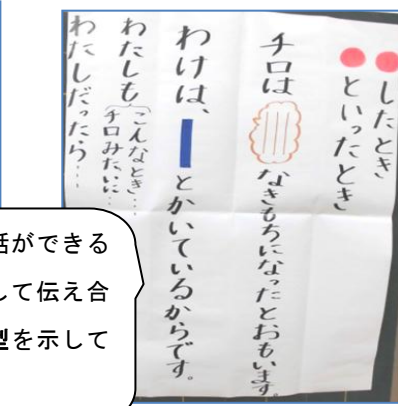


「おはなしハウスカード」知亜希先生が書いたモデルです。

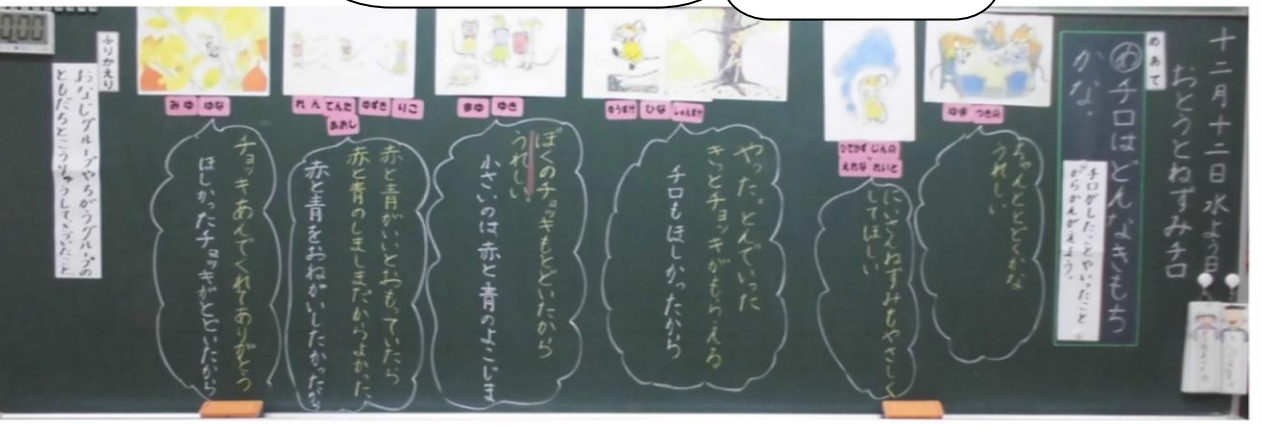


自分の好きなチロを選んでおいて、チロの気持ちを考えて吹き出しカードに書いています。

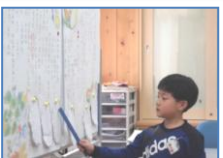
どの子も話ができる手立てとして伝え合う時の話型を示しています。



本時の板書 4/10時



全文掲示を使って、吹き出しカードを貼り、同じチロを選んだグループで交流しました。



グループで選ばれた代表が全体に広げます。



振り返りの視点に沿ってノートに振り返りを書きました。

ぼくは、ゆうすけくんとしゅんすけくんとひなちゃんのをきいて、チロにはそんなゆうきがあるのをききました。



研究協議より

- ・育成すべき「資質・能力」を付けるために、最適な言語活動であるか。
- ▼本時の言語活動は「吹き出しカードに書き交流する」であったが、交流が限定的で狭く、広がりが弱い。
- ▼付きたい力がC工なら、チロの気持ちを行動や会話から想像させたいため、吹き出しカードが有効であるが、今回は才なので経験を語らせたい。そのため、チロと自分を重ねて考えられる言語活動の設定が大事なのではないか。
- ・本時の目標が達成できたか。
- 吹き出しに、チロの気持ちを想像させて表現させる工夫があった。内容の大体も捉えられていた。
- 吹き出しカードを使ったことで、自分がチロになって言うことができ気持ちと考えやすかったと思う。
- ▼吹き出しに書いたことを説明する際に、条件が多すぎた。1年生には3つのことを要求するのはレベルが高すぎる。そもそも自分の経験と重ねる必要がここであるのか。
- ▼チロが話している口調で書くということが難しい児童が見られた。そこを徹底するのが難しい。
- ・「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は成立していたか。それはどんな事実からか。
- 話型を示していたので、それをたよりに自分の好きなところを発表できていた。
- ▼グループ内で発表する時に、友達の意見と比べて聞くことに弱さがあった。
- ▼代表に発表させたが、教師が深めさせたい内容のものを選んで意図的指名をさせる必要があった。
- ▼振り返りの指示の内容が漠然としていた→改善の必要がある。
- ・言葉による見方・考え方を働かせた児童の姿は見られたか。
- 全体で交流する時、どの叙述からそう思ったのか教材文を指さしながら説明できた児童がおり、全文掲示は有効であった。
- 代表が発表する時、他の場面と関連付けながら文章を指して発表する姿があった。
- ▼「チロの気持ち」を語る時には、チロに寄り添ってその人物になりきって考える必要があるが、「チロの好きなところ」を語るためには、外の目から見て考えることになる。その違いが1年生にとっては難しかったのではないか。



宗崎指導主事より

今回の単元では、新学指のCオとカが中心ではあるが、全部の学習過程の中で指導していくので精査・解釈の工も踏まえて指導しているのである。今回の単元計画では4時間目、5時間目、6時間目の違いが分かりづらいので改善する方がよい。今日の授業では、「チロの気持ち」を聞くのではなく、チロの行動や様子に着目させて、「どんなチロが好き？」と聞くと良い。チロを選んだ時に、どうして好きなのかその根拠を問う中で、思いを膨らませるよう先生が気持ちを問うと、気持ちを入れて発表できたのではないか。「～だから、チロのここが好き。だってぼくも・・・。」と共感的に自分の経験を交えて話ができる。登場人物の行動を基にお話ができることが大事なので、もう1回やってみるとよい。形を変えたりグループを変えたりしてやってみればよい。大切なのは、この授業でどんな児童を目指しているのか、その具体的なイメージを先生が明確に持つておくこと。

今城先生のリフレクションに、「子どもの実態に合っていない授業で大失敗でした。授業後、単元終了後に子ども達がどんな姿になっていればよいのか、ゴールを想定しておくことの大切さを痛感しました。この悔しさをバネに3学期頑張ります。」とありました。このように、自分の授業を振り返って成果と課題を的確に把握することがとても大切で、それが教師の授業力・指導力を伸ばしていく源であると思います。今回、「吹き出しカード」や「全文掲示による交流」など新しいことに挑戦して下さった今城先生。先生の言葉にあるように、3学期も更なる研究の成果をぜひ見せてください。

それでは皆さん、よいお年を。 来年もどうかよろしくお願いいたします。